商学部商学科の教育理念と3つのポリシー

教育理念

公正な社会観と倫理観の涵養をめざし、徹底した少数教育を通じて実力と創造力をそなえた有能な社会人を育成することを目的とする。
本学は、単なる知識の伝達ではなく、人間を基調とした全人格の形成を求め「公正な社会観と倫理観の涵養をめざし、徹底した少数教育を通じて実力と創造力をそなえた有能な社会人の育成」を目的としています。時代が大きく変わろうとしている今、社会も、そして大学自体も変わっていかなくてはなりません。その様な状況のもと、教育理念という普遍のテーマをベースに、高度に多様化していく時代に対応すべく、より具体的に進化した教育プログラムを構築し、学生の個性や可能性を大きく伸ばしていくことを教育の原点としています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

中央学院大学商学部は、大学建学の精神と大学･学部の教育理念に基づいて、公正な社会観と倫理観をそなえた人材を育成する学部です。流通、サービス、情報通信、製造、金融などのさまざまな業界で活躍するビジネスパーソンや、教育や行政の分野で活躍する教員、公務員などを育成します。
本学部は、編入学などの例外的な場合を除いて、４年以上在籍し、以下の１～６の能力を身につけるとともに、所定の１２６単位以上を修得した者に対して、学士（商学）の学位を授与します。

1．幅広い知識と教養：公正な社会観と倫理観の基盤となる、人間・自然・文化に関する幅広い知識と教養を身につけている。
2．専門的学識：商学および関連領域の専門的知識と当該領域において求められる思考力を身につけている。
3．問題発見力・解決力：商学および関連領域の知見を用いて課題を見定め、必要な情報を収集し、整理・分析して解決してゆく能力を身につけている。
4．多様性の理解とコミュニケーション能力：多様な背景をもつ他者や異文化の理解に努め、コミュニケーションを通して他者との協働を進めていく能力や態度を身につけている。
5．汎用的な能力：情報通信技術をはじめとした多様な手段を用いて情報を収集・分析し、論理的な判断に基づいて効果的に活用することにより、現代社会のさまざまな課題に対応できる能力を身につけている。
6．地域連携・社会貢献：地域社会や参画するネットワークの一員としての責任や役割を認識し、商学および関連領域の知見を用いてそこに貢献する能力や態度を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

中央学院大学商学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力などの修得のため、以下のような体系的な教育課程を編成・実施します。

１．教育課程の編成方針

（１）幅広い知識と教養：幅広い知識と教養を養うために、人文・自然系列科目を設置します。特に学びの基本となる必修科目は第１学年に、選択科目は第１学年から第４学年まで適宜受講できるよう配置します。
（２）専門的学識：商学および関連領域の専門的学識を養うために、商学系列科目を設置します。商学の基本に関わる科目は第１学年に配置し、商学の各領域に関わる科目は第２学年以降に、各コースの選択必修科目と自由選択科目として配置します。
（３）問題発見力・解決力：問題発見力・解決力を養うために、演習形態の科目を設置します。第１学年に通年の必修科目を配置し、第２学年以降に通年の演習科目を配置します。
（４）多様性の理解とコミュニケーション能力：多様性の理解とコミュニケーション能力を養うために、外国語科目、日本語科目、体育科目を設置します。外国語科目は第１学年と第２学年の必修科目として、日本語科目と体育科目は第１学年の必修科目として配置します。
（５）汎用的な能力：情報通信技術を利用し、情報を適切に分析・発信できる能力を養うために、情報リテラシーや情報処理、AI やデータサイエンスに関する科目を設置します。
（６）地域連携・社会貢献：地域連携・社会貢献の能力や態度を養うために、キャリアデザインやボランティアに関する科目を設置します。また、特に教員養成のために教職科目も設置します。

２．教育課程の実施方針

授業形態は、講義や演習（ゼミナール）等を適切に組み合わせて実施します。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどの活動を科目の特性に応じて盛り込むことによって、学生が主体的・能動的に学ぶことができるようにします。また、シラバスでは、アクティブ・ラーニングなどの授業形式や各回に求められる予習・復習の内容を示し、教室内外の取り組み方について説明します。学修成果の評価は、シラバスに明文化した方法に基づいて行います。各科目のシラバスでは到達目標や評価方法などをあらかじめ示し、それらの基準に基づいて客観的に評価します。また、成績評価に関する問い合わせの期間を設け、評価の透明性を担保します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

１．求める入学者像

商学部は、本学の建学の精神である「公正な社会観と倫理観の涵養」のもとで、学部の教育の理念として、商学を基盤におき、現代社会の課題に主体的に取り組む意志をもつ、「実力と創造力をそなえた有能な社会人の育成」を目指します。
このような有能な社会人を育成するために、次のような入学者を求めます。

（１）基礎的学力と専門知識修得の意欲
商学および関連領域の専門知識を身につけるため に必要な「学力の 3 要素」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）の基礎を有し、それらの学問に関心をもって、それらの専門知識を修得したいという意欲がある。
（２）幅広い知識修得の意欲
高等学校までの学修により、人文、自然、社会、言語、スポーツなど幅広い分野・領域に関心があり、それらをより深く理解したいという意欲がある。
（３）地域貢献・社会貢献の意欲
幅広い知識と教養、商学および関連領域の専門的学識を身につけ、それらをもとに身近な地域から世界 まで広く社会に貢献したいと考えている。

２．入学者選抜の基本方針

商学部では、「1. 求める入学者像」に合致する入学者を選抜するために、次の入学者選抜を実施します。

（１）一般選抜
大学独自の学力試験、大学入学共通テストなどを中心とする選抜。
（２）学校推薦型選抜
書類審査、面接、小論文などを中心とする選抜。
（３）総合型選抜
書類審査、面接などを中心とする選抜。

法学部法学科の教育理念と３つのポリシー

教育理念

人権感覚の育成と共生意識の確立とをめざし、専門教育と人間教育のバランスのとれた全人教育を施すことにより、法的素養と良識とを備えた有能な社会人を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

中央学院大学法学部は、大学建学の精神と教育の理念に基づいて、法や政治・行政に関する専門的・体系的な研究・教育を通じて現代社会への理解を深めること、およびその学習成果を活かして、有能な公務員（国家公務員・自治体職員・警察官・消防官・教員など）をはじめとして社会の様々な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする学部です。
本学部は、編入学などの例外的な場合を除いて、４年間以上在籍し、以下の１～６の能力などを身につけるとともに、所属するコースの卒業所要単位表に従って１２７単位以上を修得した者に対して、学士（法学）の学位を授与します。

１．幅広い知識と教養：人間・自然・文化に関する幅広い知識と教養をもった市民として、自己管理力や生涯学習への関心を含めて社会において幅広く活躍できる能力や態度を身につけている。
２．専門的学識：法学部の専門科目（法学系科目、政治学・行政学系科目）および各コース独自の科目に関する専門的知識と論理的な思考力を有するとともに、バランスのとれた高い見識をもって社会で活躍できる能力を身につけている。
３．問題発見力・解決力：法や政治・行政などに起因する社会の問題を発見し、必要な情報を収集し、整理・分析して解決してゆく能力を身につけている。
４．多様性の理解とコミュニケーション能力：多様な背景をもつ人間や異文化を受け入れるとともに自らの考えを表現し、チームワークにおけるリーダーシップなど他者との協働を進めてゆく能力や態度を身につけている。また、適切な言語を使用して、多文化圏の人々とのコミュニケーションを図る能力を身につけている。
５．汎用的な能力：情報通信技術をはじめとした多様な手段を用いて情報を収集・分析し、それらを論理的な判断に基づいて効果的に活用することにより、現代社会のさまざまな問題に対応できる能力を身につけている。
６．地域連携・社会貢献：法や政治・行政などに関する専門的知識やバランスのとれた高い見識を活かしながら、社会や組織の一員としての責任や役割を認識し、人権感覚・共生意識をもって地域社会に貢献する能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

中央学院大学法学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力などの修得のため、以下のように体系的な教育課程を編成・実施します。

１．教育課程の編成方針

中央学院大学法学部では、公務員をはじめとして社会の様々な分野で活躍できる人材を育成するため、５つのコースを設置しています。本学部の学生は、第１学年より下記５コースのうちのいずれかに所属し、そのコースの体系的な教育課程に沿って学びます。各コースは、法学部の基本的コンセプトと本学部の教育理念を共有した上で、それぞれ独自に、卒業後にふさわしい進路やそのための教育方針・教育体系を持ち、法学系科目や政治学・行政学系科目と各コース独自の必修科目・選択必修科目を組み合わせた特色あるカリキュラムを展開しています。

・司法コースは、裁判所事務官などの国家公務員や地方公務員などの育成を目指し、法的思考力を育む法学系科目により構成されるコース必修科目などを設置しています。
・行政コースは、都道府県庁や市役所などの行政職員や警察官などの養成のため、法学系科目とともに、政治学・行政学系科目を学修するコース必修科目などを設置しています。
・ビジネスキャリアコースは、企業法務で活躍できる人物、経営者の後継者、および起業家などの養成のため、企業法などを学修するコース必修科目などを設置しています。
・フィールドスタディーズコースは、社会科系教員などの育成のため、法学・政治学系科目の他にフィールドワーク（実地調査）や非営利組織のあり方を学修するコース必修科目などを設置しています。
・スポーツシステムコースは、スポーツの指導者や警察官、消防官などを養成するため、法学系科目やスポーツ行政などを学修するコース必修科目などを設置しています。

（１）幅広い知識と教養：教養系科目において、人間・自然・文化に関する幅広い知識と教養を身につけます。また、大学における学修の基礎を学ぶ第１学年の演習科目を必修とし、大学で学んでいく際に必要となるスキルや考え方、就職支援行事と連携した就職への意識付けのための自己分析の実施など、幅広い知識と教養を身につけます。
（２）専門的学識：コース必修科目、コース選択必修科目、演習科目、および社会科学系科目を５コースごとに設置します。これらの科目において、法学部の専門科目（法学系科目、政治学・行政学系科目）および各コース独自の科目に関する専門的知識を学修するとともに、論理的思考力やバランスのとれた高い見識を養います。各コースとも、第１学年に基礎的な学修内容を学びます。第２学年以降は学年が上がるとともに、より専門的に学びを深めます。
（３）問題発見力・解決力：コース必修科目、コース選択必修科目、演習科目、および社会科学系科目を５コースごとに設置し、これらの科目において、法や政治・行政などに起因する社会の問題を発見し解決する力を涵養します。
（４）多様性の理解とコミュニケーション能力：演習科目、学部共通必修科目（日本語科目）、外国語科目、および体育科目において、多様性を理解し他者との協働を進めてゆく能力や態度を身につけるとともに、コミュニケーション能力を向上させます。学部共通必修科目（日本語科目）や体育科目は第１学年の必修科目などとして学びます。外国語科目は第１学年と第２学年の必修科目などとして学びます。
（５）汎用的な能力：学部共通必修科目（日本語科目）、学部共通必修科目（情報処理科目）、および AI やデータサイエンスに関する科目において、汎用的な能力を育みます。
（６）地域連携・社会貢献：コース必修科目、コース選択必修科目、演習科目、および社会科学系科目を５コースごとに設置し、これらの科目において、地域連携・社会貢献の能力を身につけます。

２．教育課程の実施方針

学修方法に関しては、講義や演習（ゼミナール）等を適切に組み合わせた授業形態を展開するとともに、模擬裁判など司法制度や法への理解を深める体験学習、政治・行政に関する問題解決型学習（PBL）、実地調査に基づくゼミ論文の作成など、学生が主体的・能動的に学ぶことができるようにします。
学修成果の評価方法は、シラバスのなかに具体的に記載しています。シラバスでは、科目ごとの到達目標や評価方法を示しており、あらかじめ定められた多様な評価方法を用いて、客観的な基準で成績評価を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

１．求める入学者像

法学部は、本学の建学の精神である「公正な社会観と倫理観の涵養」のもとで、学部の教育の理念として、「人権感覚の育成と共生意識の確立とを目指し、専門教育と人間教育のバランスのとれた全人教育を施すことにより、法的素養と良識とを備えた有能な社会人の育成」を目指します。このような有能な社会人を育成するために、次のような入学者を求めます。

（１）基礎的学力と専門知識修得の意欲

法学・政治学・行政学などの専門知識を身につけるために必要な「学力の３要素」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）の基礎を有し、それらの学問に関心をもって、それらの専門知識を修得したいという意欲がある。

（２）幅広い知識修得の意欲

高等学校までの学修により、人文、自然、社会、言語、スポーツなど幅広い分野・領域に関心があり、それらをより深く理解したいという意欲がある。

（３）地域貢献・社会貢献の意欲

幅広い知識と教養、法学・政治学・行政学などの専門的学識を身につけ、それらを基に身近な地域から世界まで広く社会に貢献したいと考えている。

２．入学者選抜の基本方針

法学部では、「1. 求める入学者像」に合致する入学者を選抜するために、次の入学者選抜を実施します。

（１）一般選抜

大学独自の学力試験、大学入学共通テストなどを中心とする選抜。

（２）学校推薦型選抜

書類審査、面接、小論文などを中心とする選抜。

（３）総合型選抜

書類審査、面接などを中心とする選抜。

現代教養学部現代教養学科の教育理念と３つのポリシー

教育理念

公正な社会観と倫理観をそなえた自立した個人の育成をめざし、現代を生き抜くための教養教育を通じて、地域や社会、政治や経済との関わりの中にある自己を深く知り社会参画や社会貢献ができる市民を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

中央学院大学現代教養学部は、大学建学の精神と大学・学部教育の理念に基づいて、公正な社会観と倫理観をそなえ、幅広い知識と教養を身につけ、学び得た知識や教養を柔軟に活用して、市民として活躍できる人材を育成することを目的とする学部です。 本学部は、編入学などの例外的な場合を除いて、４年間以上在籍し、以下の１～６の能力などを身につけるとともに、「現代教養学部」の科目・配当表に従って１２４単位以上を修得した者に対して、学士（教養学）の学位を授与します。

1．幅広い知識と教養：人間・自然・文化に関する幅広い知識と教養をもった市民として、学び得た知識や教養を柔軟に活用できる能力を身につけている。
2．専門的学識：現代社会において生じている諸問題にアプローチする手段として、多岐にわたる専門的知識と思考力を身につけている。
3．問題発見力・解決力：社会における自立した個人として、現代社会のあるべき姿を求め、社会との関わりの中で問題を発見し、情報収集・整理・分析を行うことができるとともに、解決方法を見出す力を身につけている。
4．多様性の理解とコミュニケーション能力：現代社会の基底をなす多様な人間文化や異文化に対する理解を深め、他者との協調・協働が可能となるよう、メディア・コミュニケーションに対する理解とコミュニケーション能力を身につけている。
5．汎用的な能力：現代社会において生じている諸問題の検討に際して、必要となる情報を適切に収集・分析でき、効果的な情報表現・発信する能力を身につけている。
6．地域連携・社会貢献：現代社会における市民としての責任や役割を認識し、社会参画や社会貢献のための問題解決能力や専門知識・教養を活用できる能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

中央学院大学現代教養学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力や姿勢の修得のため、以下のような体系的な教育課程を編成・実施します。

１．教育課程の編成方針

（１）幅広い知識と教養：高い専門性を身に着けるための専門教育科目の知的活動の土台となる幅広い知識と教養、論理的思考力および科学的思考力を養うために、基盤教育を設置します。特に学問の基礎を成す必修科目は第１学年および第２学年に、専門分野の基礎知識となる科目は第２学年以降に選択必修科目として配当します。

（２）専門的学識：専門教育を中心に身近な地域と積極的に関わる能力を高め、グローバルな視点から現代社会をとらえる能力、他者と協調・協働できるコミュニケーション能力を養うために、専門教育を設置します。専門教育は、基盤教育と専門教育の橋渡しとなる「専門基礎」と「現代社会と人間文化系」、「異文化とコミュニケーション系」という２系列４科目群からなる教育課程を編成し、第２学年以降に選択必修科目として配当し、専門性の高い知的活動によって、知の枠組みを自ら構築します。

（３）問題発見力・解決力：問題発見能力・解決力を養うために、問題解決型の実践的教育である演習形態のゼミナール科目を設置します。ゼミナール科目は、第１学年から第４学年まで全ての学年で通年の必修科目として配当し、学年が上がるとともにより専門的な学びを深めます。

（４）多様性の理解とコミュニケーション能力：多様性の理解とコミュニケーション能力を養うために、導入教育（私たちの生活とコミュニケーション、日本語科目）、言語スキル科目、健康スキル科目を設置します。導入教育および言語スキル科目のうち英語基礎科目は第１学年と第２学年の必修科目として、英語上級科目は第２学年以降の選択必修科目として、英語以外の言語スキル科目および健康スキル科目は第１学年以降の選択必修科目として配当します。

（５）汎用的な能力：情報通信技術を利用し、情報を適切に分析・発信・表現できる能力を養うために、導入教育（日本語科目）、情報スキル科目および自然の理解科目に数理・データサイエンス・AI に関する科目を設置します。情報スキル科目の基礎科目（情報リテラシー、情報処理論の基礎）は、第１学年の必修科目として配当し、情報スキル科目の応用科目（情報処理論、情報表現論）は第２学年から選択科目として、数理・データサイエンス・AI に関する科目は、第１学年から学べる選択必修科目として配当します。また、日本語による論理的思考力、口頭表現力、文章表現力を身につける科目を第１学年および第２学年の必修科目として配当します。

（６）地域連携・社会貢献：現代社会における市民としての責任や役割を認識し、社会参画や社会貢献のための問題解決能力や多岐にわたる知識・教養を活用できる能力を養うために、基盤教育、専門教育およびゼミナール科目を設置します。

２．教育課程の実施方針

学修方法に関しては、講義や演習（ゼミナール）等を適切に組み合わせた授業形態を展開するとともに、現代社会の現状とその背景を深く理解するための外部講師を招いた特別講義、異文化を理解するための現地体験学習、ボランティア実習および実地調査等に基づく卒業論文・卒業研究の作成など、学生が主体的・能動的に学ぶことができるようにします。

学修成果の評価方法は、シラバスに具体的に記載しています。シラバスでは、科目ごとの到達目標や評価方法が示されており、あらかじめ定められた多様な評価方法を用いて、客観的な基準で成績評価を行います。また、成績評価に関する問い合わせの期間を設け、評価の透明性を担保します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1．求める入学者像

現代教養学部は、本学の建学の精神である「公正な社会観と倫理観の涵養」のもとで、学部の教育の理念としての「自立した個人が自己を深く知り、社会参画や社会貢献ができる市民の育成」を目指します。

このような有能な社会人を育成するために、次のような入学者を求めます。

（1）基礎的学力と専門知識修得の意欲：
一人の市民としてどのような仕事にも通じる幅広い教養を身につけたいという意志をもち、現代社会において市民として活躍するために必要な「学力の３要素」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）の基礎を有し、それらの学問に関心をもって、それらの専門知識を修得したいという意欲がある。

（2）幅広い知識修得の意欲
高等学校までの学修により、人文、自然、社会、言語、スポーツなど幅広い分野・領域に関心があり、それらをより深く理解したいという意欲がある。

（3）地域貢献・社会貢献の意欲
幅広い知識と教養、現代社会に生起するさまざまな課題に関する専門的学識を身につけ、それらを基に身近な地域から世界まで広く社会に貢献したいと考えている。

2. 入学者選抜の基本方針

現代教養学部では、「1．求める入学者像」に合致する入学者を選抜するために、次の入学者選抜を実施します。

（1）一般選抜

大学独自の学力試験、大学入学共通テストなどを中心とする選抜。

（2）学校推薦型選抜

書類審査、面接、小論文などを中心とする選抜。

（3）総合型選抜

書類審査、面接などを中心とする選抜。

中央学院大学

〒270-1196　千葉県我孫子市久寺家451

□資料請求・入試に関するお問い合わせ

TEL：04-7183-6516［入試広報課］

CGU　検索

koho@cgu.ac.jp